

◆中三国語Aの特色

- ① 公立高校入試レベルの長文読解問題が収めてあります。文章の読解力を確かめるのに最適のテキストです。
- ② 入試をひかえた中学生にぜひ読んでいただきたい文章を題材として選び、ねらいをしばった設問によって実戦的な読解練習ができるように工夫されています。
- ③ 「漢字・語句のドリル」で要注意漢字をチェックしてください。
- ④ 最後に「実力判定テスト」(一〇〇点満点)を付けましたので、仕上げの模擬テストとして活用してください。

もくじ

①	論説・説明文の読解(1)	2
②	論説・説明文の読解(2)	6
③	小説の読解(1)	10
④	小説の読解(2)	14
⑤	随筆の読解	18
⑥	詩・短歌・俳句の鑑賞	22
⑦	古文・漢文の読解	24
⑧	実力判定テスト	28

特別講座 (1)

作文の基本

★毎年、多くの県で必ず出題され、配点は全体の約二〇%を占める作文
 公立高校入試では、多くの県で作文が毎年必ず出題されています。与えられた題にしたがって、自分の考えを指定された字数でまとめることが要求されています。配点も高く、全体の約二〇%を占めているので、おろそかにはできません。作文に苦手意識を持っている人は、今のうちに克服し、自信を持って入試に臨めるようにしておきましょう。

ポイント① 原稿用紙の使い方

- 原稿用紙の使い方には、いくつかの約束ごとがあります。それを守らないとやはり減点の対象となります。次の基本事項を確認しておきましょう。
- ① 書き始めと行を改める場合は、一字分あける。
 - ② 読点(、)と句点(。)は、一字分を使って、ますの中の右上のところに書く。
 - ③ 「 」「・」「『 』」などのかつこや、疑問符(？)、感嘆符(！)なども一字分を使う。
 - ④ 読点や句点が一番上のますにくるときは、その前の行の終わりのますの文字と一緒にますにおさまるように書く。

1 次の文章をあとの原稿用紙に正しく書き写しなさい。

思い出と言われて思い出すのは、失敗をしてみんなに笑われたことです。「思い出はたくさんあったほうが良い」と先生がおっしゃっていましたが、私もその通りだと思います。失敗したことも今ではなつかしい一つの思い出なのです。

ポイント② 書くことに慣れる

長い文章を書く前に、短い文を書く練習を積んで、文章を書くことに慣れておきましょう。

例 「たとえ……、おそらく……。」の形の文を作りなさい。

右の例題の「……」に適切な表現を入れて文を作るとしたら、どのような文ができますか。「たとえ……」は仮定表現、「おそらく……」はその結果の予想ですから、書く文の内容も限られてきます。たとえば次のような文が考えられます。

- たとえ彼がいなくても、おそらく私たちのチームが勝つだろう。
 - たとえ雨が降っても、おそらく遠足は強行されることだろう。
 - たとえこの先どんな映画がつけられようとも、おそらくこれほど恐ろしい映画がつけられることはないでしょう。
- など、いろいろつくることができます。みなさんもいろいろ考えてみましょう。